

大学

企画課管理用 教 一 C 一 2

推進主体	国際センター
責任者	国際センター所長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教 一 C	②外国人留学生や障がいのある学生などのための学習支援体制の整備及び生活支援の充実	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

**① 目的・内容**

**[目的]**  
 国際センターでは、留学生の生活と学習を支援する資源として、バディ制度を提供している。この制度では、バディを担当する学生から、留学生が一定の時間数の支援を受けることになっているが、支援の内容や方法は、担当の学生が留学生に相談して決定することとしている。そのため、現状では、担当の学生がどのような支援を行えばよいか明確に示されず、留学生が十分な支援を受けることができない問題がある。この問題を踏まえて本計画は、以下の3点を目的とする。  
 ①生活と学習という側面において、留学生がどのようなことで困っているか、どのような支援を必要としているかについて、明らかにしておく必要がある。本学の留学生の生活や学習の実態を探るとともに、支援が必要となる部分や問題を可視化することを第1の目的とする。  
 ②支援が必要な問題を把握できた場合、それに対してどのような方法で支援を行えばよいかについて、問題への理解や、問題解決に関わる情報提供が必要であると思われる。留学生支援の関係者(日本人学生や教職員)を対象に研修や情報公開を行うことで、留学生支援に取り組む知識や能力を持つ人材を育成することを第2の目的とする。  
 ③留学生支援と言えば、留学生が困ったところに人的・物的な支援を届ける形が典型的である。一方、留学生が学内で活躍できる機会や場所を提供するのも支援の一環として考えられる。留学生が自身の個性や能力を生かす国際交流や言語交換の活動を設けたり、留学生が主体的に参加できる国際交流の学生団体を立ち上げることで、留学生が自己実現を目指す機会の創出を第3の目的とする。

**[内容]**  
 本計画は以下の3つの取組を行う。  
 ①取組1「留学生の生活及び学習の実態調査」:生活面や学習面で困ったところや不満に思うところについて、留学生が声を上げることが非常に少ないことが現実である。取組1では、アンケート、ヒアリング、SNS等、様々な方法を運用し、留学生の生活及び学習の実態を調査・分析を行う。  
 ②取組2「留学生支援の研修及び情報公開」:取組1の調査を通して集められた事例や問題点を基に、支援の方法を共に考える研修を計画し実施するとともに、その研修で得られる成果や知見を、留学生支援関係者や関係部署に情報公開を行う。  
 ③取組3「自己実現を目指す機会の創出」:様々な国や背景を持つ留学生が、自身の個性や能力を生かし学内で活躍できる場合、留学に対する満足度が上がるとともに、日本人学生が本学のキャンパスにしながらグローバル社会を身近に感じることができる。取組3では、国際交流や言語交換の活動を行い、留学生が自身の個性を生かす形で学内のメンバーに存在感を示す機会を増やす。それとともに、留学生と日本人学生が共に国際交流に携わる学生団体を立ち上げることで、留学生が主体的に活躍できる場所を確保する。

**② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

- 1.本学の留学生の生活や学習の実態を調査し、要支援の部分や問題点を明らかにする。
- 2.留学生支援の内容や方法に関する研修を実施し、留学生の生活学習支援者を育成する。
- 3.留学生が自己実現を目指す機会や場所を創出する。

**③ ロードマップ**

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	取組1						
	取組2						
	取組3						

**④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。**

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<p>取組1: アンケートやヒアリングを通して、留学生の生活や学習の実態を調査する。調査結果をまとめる。</p> <p>取組2: 学習支援者を育成する研修の内容や方法を検討し、試行的に実施する。</p>	<p>取組1: 協定留学生が生活面や学習面で直面している困難や不満について、まずヒアリングを行い、1. 来日時のサポート、2. 学期中のサポート、3. 授業や勉強の満足度、4. 日本人学生との交流、5. 留学生同士の交流の5点にまとめ、調査を行った。その結果、来日時の手続の困難さや、日本人学生との交流に不満を感じていることが浮き彫りとなった。</p> <p>取組2: 研修の試行的実施には至らなかったが、調査の結果、留学生は、本学での学習面については、概ね満足しており、生活面や国際交流を支援する人材の育成が必要であることがわかり、研修の方向性が見えた。今後具体的な内容や方法を検討する。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和5年度 (2023年度)	<p>取組1: アンケートの結果を踏まえ、来日時の留学生向け手引きを充実させ、取組3とも関連するが、交流イベントの見直しを行う。昨年度に続き、アンケートを行うことで、改善策の効果の有無を検証する。</p> <p>取組2: 現在のバディ制度を活用し、留学生が抱えている問題を提起し、支援方法を共に考える場を設ける。必要があれば、学内の関係部署で共有する。</p> <p>取組3: 留学生と日本人学生が外国語で話すチャットルームを進化させるとともに、それ以外に実施可能な交流の場や支援する学生団体の創設に向け、検討を開始する。</p>	<p>取組1: 前年度に実施したアンケートの結果に基づき、SNSによる国際センターの情報発信を行った。また、「異文化体験週間」や「留学フェア」等の国際交流イベントを例年より数を増やして実施し、協定・私費留学生、海外留学を経験した学生による、各国を紹介する機会を設けた。また、質問項目をより具体化し、協定留学生・私費留学生・バディを対象としたアンケートを行った。その結果、留学生においては、留学初期の手続きに困難を感じるものの、国際センターの支援について、全体的に満足度が高いことがわかった。課題として、提要している支援に関する情報発信をより強化していく必要性が見出された。</p> <p>取組2: バディ同士の意見交換の機会、留学生への日本語学習支援方法、異文化間コミュニケーションを学ぶ場を今年度新たに設けた。また、バディ経験者にアンケートを実施した結果、留学生との接触機会にはばらつきがあることがわかり、質の保証が課題として見出された。</p> <p>取組3: 留学生と日本人学生が外国語で交流するチャットルームを複数回実施した。また留学生の発案によるマンツーマン・あるいはグループ形式の外国語(韓国語)学習支援企画について、その周知及び教材面で国際センターがサポートした。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和6年度 (2024年度)	<p>取組1: アンケートの結果に基づき、来日時の手続がより円滑に進むように支援を行う。また、国際センターが提供しているサポートについて情報発信面で強化を行う。</p> <p>取組2: 留学生とバディ経験者を対象としたアンケート結果に基づき、個人による参加頻度のばらつきを解消するために、バディミーティングの定例化、バディ活動の目標設定を導入し、改善を図る。</p> <p>取組3: 留学生と日本人学生との交流の機会を定期的に設ける。具体的に、これまで行ってきた「異文化体験週間」等のイベントに加え、JLPCコースを受講している学生や、留学生の希望者が日本人学生と共に自主的にイベントを企画し、実施できるよう、支援していく。</p>	<p>取組1: バディ向けの最初のオリエンテーションで、バディに求める役割や支援例を示し、例年よりも具体的な説明を行った。具体的には異文化理解や外国語教育支援に関する内容を提供した。</p> <p>取組2: バディミーティングを各学期毎に2回ずつ開催して、バディ同士の情報交換の場を設けた。さらに、バディと留学生がゲームや会話を通して交流するイベントを後期に開催し、活動へのモチベーションを高める機会を提供した。</p> <p>取組3: 例年に比べ、「異文化体験週間」や「チャットルーム」に協力する協定留学生の人数が増加し、積極的に日本人学生との交流が行われた。一方で、私費留学生の協力者数は伸び悩み、私費留学生の活躍の場を設けることが課題であるように感じる。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和7年度 (2025年度)	<p>取組1: 本学に在籍する協定留学生・私費留学生を対象に、留学の効果測定を今後導入する予定であり、令和7年度は、国際センター教員のもと、アンケートの質問項目の開発に取り掛かりたい。</p> <p>取組2: 昨年度に引き続きバディミーティングを定例化することで、バディのモチベーションを保ち、活動頻度を高めたい。さらに、バディ活動の取組をホームページ等に掲載して、学内外に発信する。</p> <p>取組3: 学内開催イベントを中心に、留学生が主催者側となるイベントの企画や運営に携わる機会を新設したい。特に、既存の留学生会(中国・韓国)を活用して、私費留学生の活躍を促進したい。</p>	<p>取組1: 国際センター教員が、外部の専門家と連携、既存の測定ツールを分析の上、課題を整理し、留学の効果測定アンケートの質問項目を作成した。</p> <p>取組2: バディミーティングを定期的に開催したことで、バディ同士の交流の機会を設けた。さらに、国際センターボランティア学生のグループ「学習院SIPS」がバディと留学生の交流イベントを定期的に開催し、両者の関係性を深める機会を作った。加えて、バディの取り組みを国際センター発行の広報誌(Newsletter)や学習院SIPSのインスタグラムにて紹介し、対外的な発信を行った。</p> <p>取組3: 国際センター主催のイベントに関して、既存の留学生会(中国・韓国)のリーダーと連携を図ったことで、私費留学生の参加率が上がり、他学生との交流や活躍の機会を提供できた。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和8年度 (2026年度)	<p>取組1: 本学に在籍する協定留学生・私費留学生を対象に、留学の効果測定を図るアンケートを実施したのち、回答結果を分析する。</p> <p>取組2: 国際センターボランティアの学生を中心として、バディと留学生が交流できる機会を作り、バディが留学生の悩みやニーズに寄り添えるようにする。</p> <p>加えて、バディ活動の取組や活動成果の発信を強化し、在校生の留学の促進及び国際交流イベントへの参加を拡張する。</p> <p>取組3: これまでと同様に、学内開催イベントを中心に、留学生が主催者側となるイベントの企画や運営に携わる機会を新設し、日本人学生にとっても、異文化を体験できる機会を作りたい。</p>	